

長寿社会文化協会（WAC） 「長寿社会への提言」原稿
（残念ながら入賞はしませんでした）

60歳からのチャレンジ

「定年留学」で再スタート

Seniors be ambitious! (熟年よ大志を抱け!)

世界で最も夢を抱いていたのは誰だろうか？歴史上あまりにも多様な人物がいて、人によって見方も異なるので一概には言えない。でも、文学の世界でこの人物に異論を唱える人は少ないだろう。

「ラ・マンチャの男」ドン・キホーテ。正義を求め、悪と戦うために槍をかかえ、ロシナンテに乗り風車に向かって突進する。従者サンチョ・パンサが物質主義の権化とも言われるのに対し、思い姫ドルシネアを胸にどこまでも夢を追って進むドン・キホーテは理想主義の典型とも解釈されている。

なぜ私がドン・キホーテを挙げるのか。それは小学校の6年生までさかのぼる。学校の学芸会に、クラスで劇「ドン・キホーテ」を演ずることになり、私がサンチョ・パンサの役になったのがきっかけだった。以来、その奇想天外なストーリーに惹かれて少年向けの本を、大人になってからは全訳本に何回も目を通した。更に、松本幸四郎が演ずるミュージカルを3回も観劇した。舞台でドン・キホーテがつぶやいている。

「理想と正義に向かって突進するオレのことを、皆は気違いだと言う。でも、やりたいことがあるのに、世間の風評、体面なんかを気にして現実に妥協、やろうとしない彼らこそ気違いじゃないのかね・・・」

私は、現役時代には仕事で中南米の国々を回っていた。その時感じたことは、ラテン・アメリカの文化の原点はすべてスペインにある、ということだった。そこで、いつかはスペインに行きその原点を探りたい、特にその文学の原点ともいべき「ドン・キホーテ」を究めてみたい、との夢を抱いていた。

おりしも、十数年前、当時の通産省から、年金生活者が海外で生活できる「シルバー・ロンビア計画」が出されていた。それはさまざまな状況から立ち消えになったが、私はその候補地の一つであったスペインの地中海岸コスタ・デル・ソルに住み、マラが大学でスペイン語とスペイン文化の勉強に取り組むことにしたのである。

近年、定年後のロング・ステイ（海外長期滞在）が静かなブームになっている。「年金で楽しい海外生活」 大いに結構だと思う。でも、ただ楽しいだけでなく、そこに何か創造的なもの、社会に役立てる何かがあったときに、人生は更に充実していくだろう。その一つが留学である。

「留学」　こんな良いものを子供たちだけの専有にしておく手はないだろう。これまで家族を支えるために必死で働いてきた父親族も、少し人生を振り返る余裕のできた定年後に、青春時代にできなかった夢を実現しようと考えても、責められる理由はないだろう。

思えば、私自身、多感な高校時代に不測にも校舎が火災で焼失してしまった。不備な仮教室での授業と受験準備のため、クラブ活動も十分にはできなかった。楽器を買えるような家計でもなかった。卒業後は、今度は母が病気で倒れ、経済的な事情から大学もサークル活動に参加するほどのゆとりはなかった。でも、スペインでは語学の勉強のほか、ギターもテニスも、高校や大学でしたくてもできなかったことを、実現できたのだった。

定年1年目には準備を進め、2年目の2002年、妻と一緒にスペインに渡った。クラス仲間は大部分が20代前後の若者だったが、中には自分以上に年輩の“はつらつおじさん”(カナダ人)もいた。文化も考え方も違う各国の留学生との交流は、極めて刺激的で啓発的だった。これは、是非、日本の皆さんにも伝えるべきだと考えが生じてきて、1年間の留学を終えると、『定年留学』してみませんか？　60歳からのアクティブ・ライフのすゝめ」との本を出版した。

定年後は、HavingでなくBeingが大事になってくる。財産や貯金を持っているより、今、何をやっているかが問題。財布にいくら入っているかが問題ではない。心にどんな夢を描いているかが問題なのである。“Seniors be ambitious!　熟年よ大志を抱け!”である。

夢が、志が人を創る。大きな夢と志は大きな人生を創る。世界には経済的なものだけでなく、もっとエキサイティングで大事なことがいっぱいある。そんな異質の文化や生き方に感動し、啓発され、自らの世界が広がるのが留学の一面ともいえるだろう。留学は残りの人生への“再投資”とも言える。

スペインから戻って1年半。現在は、シルバー人材センターの自転車整理の仕事、国際理解を深めるための高等学校の教材づくり、NPOで在日外国人の支援活動、地元のシニアクラブのパソコンサークルの世話人と同クラブの新聞の編集、市民大学の学生、それにギター、テニス、ゴルフ……。いろんな立場で経験が生きている。

再び環境が整ったら、もう一度スペインを訪ね「紀行」を書いてみたい。『東京のドン・キホーテ』、ラ・マンチャを訪ねる」なんてタイトルで……。